

いい顔してる！！

先週の木曜日、南島原市中総体駅伝競技大会が開催されました。大会に臨んだのは、選手・補欠合わせて22名。7月7日から約3ヶ月間、みっちり練習に取り組んだ成果を出そうという思いが、どの生徒のまなざしにも表れていました。まず、気持ちが良かったのが朝のあいさつ。全員が整列して、大きな声で“よろしくお願ひします！”この一声を聞いただけで、「今日はいけるな！」と思いました。11時、女子のスタート。5人の選手が襷をつなぎ4位でゴール。次に13時、男子のスタート。6人の選手が懸命に走り、6位でゴール。この走る姿は本当に立派で「いい顔してるな！」と感心しました。何より嬉しかったのは応援態度。補欠の生徒だけでなく、走り終えた選手も一緒になって、大声で声援をおくる姿に感動をおぼえました。今回は上位入賞を逃しましたが、胸を張っていい走りでしたし、何より来年の飛躍を予感させる襷リレーでした。よく「経験は宝」と言われますが、駅伝に取り組んだこの3ヶ月は、彼らにとって、間違いなく「宝」であり「財産」であると強く思った次第です。駅伝競走大会に臨んだ生徒の皆さん、本当にお疲れ様でした。そして、感動をありがとうございました。



地元学ぶ

コロナ禍になって3年余。以前は職場体験学習を行っていましたが、福祉施設等での体験学習ができなくなって断念。それに代えて、この3年間は農業体験を実施しています。今年も2年生が9月29日、30日の2日間、10軒の農家及び酪農家にお世話になりました。

生徒は体験後の感想に、「きつかったけど楽しかった。」「貴重な体験ができた。」などと書いており、本当に有意義な時間になったようです。今回の経験が、地元愛や食育、適正な勤労観につながることを期待しています。

以下に、生徒の感想の一つを紹介します。

仕事を指示されて、その仕事をしていく中で、分からないことがあったら、分からないままにせず、聞くことを必ず行うことが大切だと思った。「聞くが一時の恥、聞かぬが一生の恥」という言葉は、今回の農業体験を通して、全くその通りだと思った。分からないままだと何もできないから、「分からない」を「分かる」に変えるような行動を、自分が将来働く中でとりた。

餌やりなどでは、思った以上に体力がいるから、力も必要なことをあらためて知った。今回の農業体験では、自分が将来働くために必要な基礎的なことを学ぶことができてよかった。